

警戒レベル4までに必ず避難を！

警戒レベル3

「高齢者等避難」

状 況

災害のおそれあり

住民がとるべき行動

<避難に時間を要する方>

危険な場所から避難して  
ください。

<その他の方>

避難準備をしてください。

警戒レベル4

「避難指示」

状 況

災害のおそれ高い

住民がとるべき行動

該当する地域の方は、

危険な場所から全員避難  
してください。

警戒レベル5

「緊急安全確保」

状 況

災害発生又は切迫

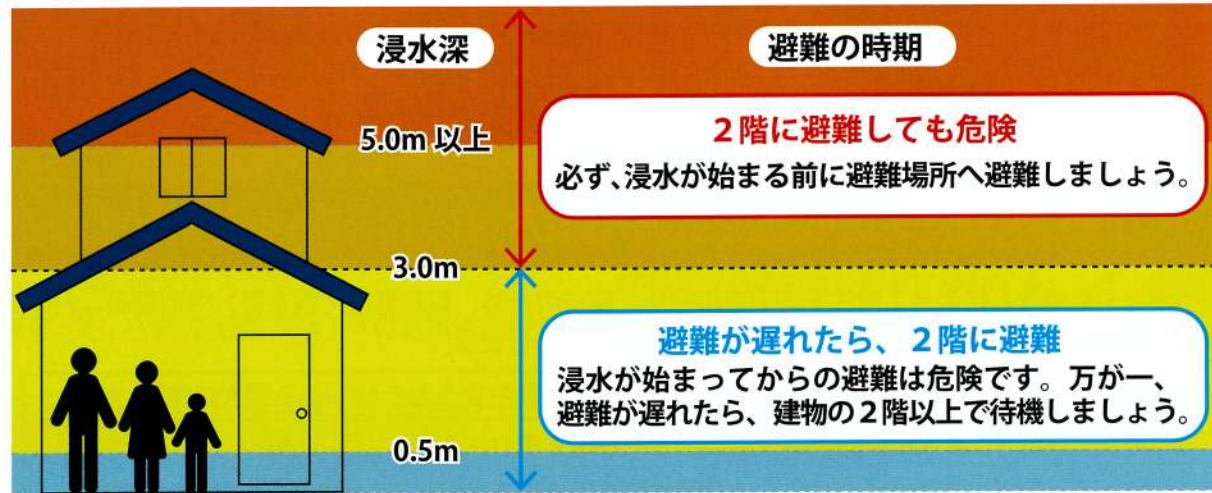
住民がとるべき行動

命の危険が迫っているため、  
直ちに身の安全を確保して  
ください。

※災害発生情報を確実に把握することが難しい  
ため、必ず発令するとは限りません。

適切な避難の時期を確認しよう

洪水の正しい避難行動は、「浸水が始まる前に避難する」ですが、万が一の事態に備え、ハザードマップより  
自宅の浸水深を確認し、下のイラストから避難を判断しましょう。



避難するときの**注意点** ！避難するときは、ガス・電気・火を消し、戸締まりを忘れずに！

動きやすく安全な格好で！

避難するときは、動きやすく  
安全な服装で。ヘルメットや  
防災ずきんで頭を保護する。  
靴はひもでしめられる底の  
厚い運動靴を。長靴は浸水が  
深いと中に水がたまるので  
動きにくくなる。素足は厳禁！



歩ける深さに注意！

歩行可能な水深は、ひざの  
高さくらい（約50cm）。  
水の流力が速ければ、  
20cm程度でも要注意！  
無理をせず、高所で救助を  
待とう。



車での避難は控えて



足元に注意する！

水面下にはマンホールや  
側溝などの危険があるので、  
長い棒を杖代わりに突き、  
確認しながら進もう。



集団での避難を！

単独行動をせず、  
集団で避難する。  
はぐれないように  
お互いの体を  
ロープで結ぶ。



車での避難は緊急車両の  
通行の妨げになるほか、  
交通渋滞を招く。  
また、浸水した場合、  
水圧でドアが開かなくなる  
危険もある。

火災予防 10 項目

- 1 **ストーブの近くにものを置かない**  
給油するときには火を消す。
- 2 **料理のときはその場を離れない**  
その場から離れるときは火を消す。
- 3 **寝たばこはしない**  
たばこの火はしっかり消す。  
たばこの投げ捨てはしない。
- 4 **電気器具は正しく使う**  
たこ足配線をやめる。  
コードの上には重いものをのせない。
- 5 **コンセントにはホコリを付着させない**  
テレビの裏などは注意が必要。
- 6 **風呂の空だきをしない**  
点火のときは浴槽の水量を確かめる。  
点火・消火は目で確認する。
- 7 **住宅用火災警報器を設置する**  
寝具やカーテンなどは防災製品を使用する。
- 8 **就寝前や外出時は火の元点検**  
ガスの元栓、煙草の吸殻などの火の元点検を  
行う習慣をつける。
- 9 **子どもにはマッチやライターで遊ばせない**  
子どもの目につくところに置かない。  
触れさせない。
- 10 **家の周りは整理整頓**  
放火されないように物を置かない。

火災が発生したら…

- 1 **大声**で知らせる  
「火事だ！」と大声を出して、  
隣近所に助けを求める。  
小さな火でも119番に通報する。
- 2 **初期消火**を試みる  
ボヤでおさまるのは、出火から  
3分以内が限度。それまでに様々な  
手段を用いて消火を試みる。
- 3 **すばやく逃げる**  
天井に火が燃え移ったら初期消火  
は中断し、煙を吸い込まないよう  
低い姿勢で直ちに避難する。



119番 通報のポイント

！119番通報をするときは、冷静に！

！落ち着いて、火災やけが・病人等の  
状況をできるだけくわしく伝える！

火事？救急？ 火事か救急の別をハッキリと伝える。

場所をハッキリと！ 住所の他に、目標物なども伝える。

建物の種類は？ 木造かビルか、また階数なども伝える。

けが人等は？ 事故や病気・けがの様子をくわしく伝える。